

911.1
七
5

井越
抄
五

深川藏

井柳抄第五

一同類事

六百番歌合

右

中宮權太史

とらの海乃味は上をむらへけり
友方より云々
すも乃海の味は上のくむらへけり
とく海の味は上のくむらへけり
又同判云々

そとめお首中 惟時秀逸之類をうまふ
同子合 かつか

友持

題名

おれぬきいあふのうまふめてはるはむの金おの世ま
ち方やー云た平 詞花集後惠平云ゆいもま
けろくちいふはらふいつあぬ物とておれさうり
その心れさーにゆへはならふとゆへーいさう
うまふと耳ーのうまふとあふ

判云た平の後惠法師がよおぬてゆたふ

プーきりやー乃あふとてはるはむの金おの世ま
但平定文り平拾遺たふはらふとてまゆ乃
けかひさすおそあふとてはるはむの金おの世ま
女よせさく名いさといふあふとてはるはむの金
よ繩と勘とらふむんあふとてはるはむの金

同子合

友

女房

ひさしおのうまふまやあふとてはるはむの金おの世ま
右方申云おぬとてはるはむの金おの世ま

じせふ... 年... といふ

左陣云不撰集者不見及有柯羅平

判云左云新改り予之系城不平... 撰取

也撰集し外い志外て云... 也

千五百番平合

右

頭昭

判云左云... 判云左云... 判云左云...

よりて... 思ひあ

事そゆる... せん

建久二年左大將... 首

あ... せん

正治二年内大臣... 合

駒とめて... せん

雖似昨今事... せん

あ... せん

雖似... せん

和云二代判紙一巻

六百番 終巻

右持

頭紙

此の二巻のしきとていふは、
判云左のしきとていふは、
基後と申す、
といひ、
六百番

右

左

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

判云右の後二巻、
をいふは、
早よりいふは、
文字は、
一同て、
千五百番

西行所蒙懼川す合

あやうくあるとてくさむじきひつるがはな
判云思むくいあふだういふあふあふのういふ
けく始又文字やういふあふいふ
な今くるあふいふあふのあふいふあふ
あふあふいふあふのあふいふあふ
判云た初うたかあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふ

いこつ林の裏法平うけさる

井蛙抄第六

雑談

故宗近被諸う云續古今正元之年西園寺
切徑供養時氏部卿入道一人の撰進之中
修下傳うとて後被撰者法白真觀下向因
東將軍家中務卿宗此道法師花と取て毎年
よりなりとて我思ふさふ小うり民治入
あ我撰のう乃卯一刺以上有申る細や
ては法用傳さわ評定所治定乃るう後又
改めう小う我撰をうけ治定はるうに撰

本或之申らるけりいふやいふるゆん
霧内府し事秘事ゆりしと云云秘事
他人方より海に伝へる鶴は拙氏願するは
と申す入道利口申されし海と云く集法
定は後以好相遠事とも一卷の書て常盤
井入道相國乃りしふはつと云云秘事
時勅撰之者故實二百ヶ条秘事越祖又入道
よりお傳へし事と云云秘事教へ常盤井
相國は海に伝へる間見及次河書は百首より傳

百首前記ありとある人きりなりと我のりせ也ら
と云ふ大旨なり秘事ありともある人きり
戸部ら云寛元六帖人々秋大略秘事あり
と常盤井入道相國故実秘事納云入道秘事
風神は異として云けりいふと云云秘事
は法入乃りなりと云云秘事
一条法中云常盤井入道おま鹿嶋にて後入道
氏より人乃りし事秘事此道は眼より久之悲難
秘事秘事寛元六帖俗に近く讀古と新撰云

井部

神平山院勅撰なふす入す小あはるる
體下侍一ふきと一も被^セ拜^イまふく柔ふ
其^ミの^ミ意^イに^ニ此^{コノ}奇^キ玉^{タマ}葉^ハ一撰入^ハ不^フ思^シ儀^ギも一也^{ナリ}
戸部云歌多一人^ハと^ハ人^ハ公^{キミ}て^テ去^サ林^ハあ^ハ中^{ナカ}綱^{ツナ}云入^ハ
道^{ミチ}内^ノ裏^{ウラ}河^{カハ}會^{カヒ}新^{ニホ}路^ロ換^カ一^ハ道^{ミチ}此^{コノ}由^ヨ乃^ハ野^ノ原^{ハラ}の^ノ柳^{ヤナギ}
一^ハえ^ハ初^{ハジメ}く^ハあ^ハれ^ハ思^シひ^ハ乃^ハ煙^{ケリ}く^ハ人^ハやと^ハ海^{ウミ}く^ハ
一^ハは^ハ一^ハ座^ザ仙^{セン}洞^{ドウ}法^{ホフ}流^{リウ}せ^ハれ^ハく^ハの^ハち^ハき^ハあ^ハつ^ハ可^カ傳^{デン}あ^ハは^ハ
く^ハゆ^ハと^ハ乃^ハ下^カく^ハ自^ミら^ハし^ハ禁^{キン}裏^リ經^{キョウ}日^{ニチ}教^{キョウ}後^ゴ世^セは^ハ氏^シ
ゆ^ハふ^ハと^ハれ^ハく^ハ後^ゴ世^セ更^{マシ}着^{シヤク}陣^{ジン}一^ハて^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ

此^{コノ}所^所法^{ホフ}有^{アル}親^{シン}味^ミく^ハ中^{ナカ}綱^{ツナ}り^ハあ^ハく^ハ先^{マシ}に^ハ一^ハ程^{ハジマ}あ^ハは^ハ暖^{ナン}
學^{ガク}す^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ
又^{マタ}云^ク中^{ナカ}綱^{ツナ}言^{イハ}入^ハ道^{ミチ}早^{ハヤ}一^ハあ^ハ心^{シン}あ^ハれ^ハぬ^ハと^ハて^ハ後^ゴ高^{タカ}羽^ハ院^{イン}
被^セ法^{ホフ}流^{リウ}あ^ハま^ハす^ハて^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ又^{マタ}在^{アル}法^{ホフ}流^{リウ}乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ
意^イあ^ハま^ハし^ハけ^ハる^ハと^ハて^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ
又^{マタ}云^ク中^{ナカ}綱^{ツナ}云^ク入^ハ道^{ミチ}是^{コノ}法^{ホフ}和^ワ尚^{ショウ}一^ハ進^{シン}け^ハる^ハ物^{モノ}一^ハあ^ハる^ハ
の^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ乃^ハの^ハ事^{コト}一^ハめ^ハは^ハ

と云ふやうな亡父乎は比とて十分一
不及

或人語云ぬり自説と番て文川定家少平

此判とあひつり判之候西行人よりとに違

ける物と候候しそ奇判していつて人見

もようんするをふいととて

後鳥羽院遠より九条肉大長于時權へ被事勅去と

見ゆしつる中能くする被と右法被と園白首寂

勝寺の教と書老候つあるる毎は帝面にとて

妙音院入通仁平忠実の時琵琶と弾と孝情さて

中將との時琵琶と一候ひつは成あされやと

これ鬼神をもひさる一はへく思ふ孝情

ト一候候事念と由思ひまけるふ尾張が違は

孝情つ候と思合と物なめいお構て昨今乃詠

の見者とえるやうとて候と古

戸部云新勅撰時光の孝情とあより鶴とのあ

を執りされ河撰者所逐事以後家柄教鍾毫

流子とて三十七とてせ給ひとてと

多くくんとて風神なる能くゆきやみぬて
但お記ぬべきやれをと都てまゝにせんといや
はまゝのうゆきも是より宜れり——らり
又云お隆き床蓮り尊也床蓮相具——く大丈
へ道お守門弟よなるも禅門より云此仁来
来の予仙する人——思案のふひは難哉かと
いふ事とていつとつても平しむべきゆき——に
ふらりおとゆる人きそといふとんばとてと感
基但後云土法門院小宰相たけなほらりけりふ於二

位乃予よけふゆあくきとあるはゆきとておのれ
のへかゝるれあるなりとけりてぬる松枝白き
といふおとんえあききやう——人なりとてあ
思ふとのゆき——あきとてゆきとてはあ
ゆきとてゆきとて
或人云新勅撰えりゆれりる時梅の予よ花や
なる年なり——て撰者周章せりゆりゆり
壬生二の予中あきとあきとて撰りてけり
よつく星の月乃りゆりもゆきとて梅はく山法

峯^{みね}此書^{この}月^{つき}といふ^{いふ}千^{せん}と^と人^{ひと}あ^あく^くら入^いる
初^{はつ}め通^と候^{こう}云^いふ^ふ人^{ひと}と^とけ^け人^{ひと}と^とや^やい^い人^{ひと}お
は^は終^{しゆう}く^く入^いる乃^の書^{しよ}れ^れ曙^{あけぼの}の^の千^{せん}ハ^ハ建^{けん}長^{ちやう}終^{しゆう}千^{せん}合^あ時^{とき}
ひ^ひ紙^し乃^のき^きそ^そく^くと^とれ^れく^くふ^ふ書^{しよ}て^て祖^そ父^ふよ^よみ^みせ^せく^く
さ^され^れ一^い時^{とき}人^{ひと}と^とや^やい^い人^{ひと}と^とか^かれ^れき^きま^まく^く一^いと^と人^{ひと}
と^とい^いや^やと^とう^うふ^ふが^がき^きく^くあ^あけ^け有^あハ^ハね^ねと^とあ^あね^ねと^とあ^あ
す^すか^かく^くく^くみ^みと^とい^いや^やと^とき^きて^てと^とあ^あく^く
小^こ倉^{くら}黄^{わう}門^{もん}程^{ほど}つ^つ云^いふ^ふ後^ご漢^{わん}家^か氏^しア^アハ^ハ道^{だう}よ^よけ^けく^く
あ^ああ^あ氏^しハ^ハい^いん^んと^とや^やい^い人^{ひと}あ^あけ^け鳴^{なり}神^{かみ}つ^つく^く山^{さん}一^い
と^とい^いや^やと^とう^うふ^ふが^がき^きく^くあ^あけ^け有^あハ^ハね^ねと^とあ^あね^ねと^とあ^あ

明^{めい}の^のあ^あく^く雲^{うん}有^あ人^{ひと}い^いん^んと^とい^いは^は先^{せん}程^{ほど}あ^あく^くは^はつ
ま^まく^くあ^あく^くと^とい^いは^はつ^つと^とい^いは^はつ^つ
戸^こり^り云^いふ^ふ白^{はく}河^か教^{きやう}七^{しち}百^{ひやく}首^{しゆ}乃^の内^{ない}氏^しア^アハ^ハ入^い道^{だう}ハ^ハ御^ご制^{せい}衣^いは^は教^{きやう}
と^とい^いん^んと^とい^いハ^ハ十^{じゅう}首^{しゆ}祿^{りく}と^と冷^{れい}泉^{せん}大^{だい}納^{なつ}言^{ごん}あ^あ氏^しハ^ハい^いん^んと^とい^いハ^ハ
お^おり^りく^くは^はき^きと^と程^{ほど}つ^つあ^あく^くさ^され^れて^て百^{ひやく}首^{しゆ}これ^{これ}と^とい^いは^はつ^つ
還^{くわん}所^{じよ}ハ^ハ内^{ない}達^{たつ}者^{しや}と^とい^いん^んと^とい^いハ^ハつ^つと^とい^いハ^ハつ^つと^とい^いハ^ハつ^つ
又^{また}云^いふ^ふ七^{しち}百^{ひやく}首^{しゆ}乃^の内^{ない}氏^しア^アハ^ハ入^い道^{だう}ハ^ハ御^ご制^{せい}衣^いは^は教^{きやう}
あ^ああ^あく^くに^にい^いハ^ハ次^じ入^いら^らき^きて^ての^のハ^ハ布^ふれ^れと^とい^いハ^ハつ^つ

并入道其書くは後撰乃那とらふ物と云ふの
見ゆり一は成るあつて下てすてふに
南一りけり、神も秘のれ成や露守れ
云々れ親は海のがまされいさされふと
くそと西使乃あひれくの一の備き一乃兼四
蚊蚋一りて調りきなりなるや、れ事あるとや
ふまの海は他一り実なり門才あり隆信と云
ふと一照乃兄才也うれしむとふあふり
あ門并親

信實朝臣女三人ありこれに子よと藤壁門
院がゆきけり秀逸なりとの秘はけりき別の
ありとて思ひもててもや時んといふ
と感一して東橋黄門老後よ古今とすてあふ
らに奥書一國母仙院少將女依あひ道之堪能
願老眼く不恨書寫之

少將肉肉いさう端くあふに妙を藤壁門院
將老後よ出家してはけり高徒よすこけり
平親清女あつてふりなりとてふれふ人

正三位行中納言兼侍從左近衛

正三位行侍從左近衛

左近衛

清和

一々世あれを七玉集と号し
 常盤井入道相國
 老後の晴乃お世不心^の及執^のしてよむへーかゝ尾
 ともさう馬は唐鞠^くとて面白^ひき引^ひきとてなる様
 一派すへーと被^まりて誠^{まこと}弄^ご毎^{ごと}におりやあ
 ちくあけさうくうおつーき狎^ひなるもあ家^{いへ}二代
 奇^きもい百首^{ひゃくしゅ}対^{たい}親^{しん}換^{かん}也^{なり}百そとそ是^{こゝ}と本^{もと}あて^て読^よむ
 翻^{ひるがへ}して衣^え笠^{かさ}和^わ府^ふ此^{こゝ}予^よ対^{たい}侍^し也^{なり}おろく物^{もの}撰^{せん}
 乃中^{なかつ}かあもこ

故家通云氏郡入道時三清門後傍初なるやうと
 ゆらんつむ一^{いっ}情^{じやう}分^{ぶん}れ事^{こと}といひは帯^{おび}はあさこ予^よは
 海^{うみ}とされととへー乃^{なり}理^りはあさこいへーと
 あいそきて後^{のち}乃^{なり}はあさこいへーとつきてあ
 と一首^{いっしゅ}後^{のち}していへるやうとへきかへ中^{なかつ}来^き
 富士^{ふじ}山^{さん}一^{いっ}海^{うみ}はあさこいへるやうとあれはな
 乃^{なり}理^りはあさこいへるやうとあれはな
 あさこいへるやうとあれはな
 又云氏^{うぢ}予^よ入^い道^{だう}は古今^{ここん}此^{こゝ}院^{いん}とて字^{あざな}んとしてあ

一 此法師もて圖書なれば志なきは
よきなり。又おとくして侍る。今も
も。あつては。由らば。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。
て。説。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

又云。氏。氏。氏。氏。氏。氏。氏。氏。氏。氏。
や。や。や。や。や。や。や。や。や。や。
神。神。神。神。神。神。神。神。神。神。
一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。

今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

よりもより一つあも結婚がよかへなふへ
と申され一つ積古しとあるあつていふて未
勅撰よあてて奇教もあつて入る侍らふの
乃末の民として侍るとかつてまこと詩あつてはく
りて兼修集あも入佛はゆも立入る一生不犯の
豫尼也法無違ふ教よまればとまふあきう
あつてくまはなとをせつ積古しと河内月
葛蒲あつて乃とあもて今出川中宮と申し
よまのあつて權大納言となつて車よあもた

りてゆるもあつてめつて
人なむ

戸部云京極中納言入道は○よりりけふあ
ちあふ大納言東兼よと陣あはまてとあ
をそなひつるあよもひへ
資雅三位の氷下
あつてくまはなとをせつ積古しと河内月
ひへつてす

民部入道も亡父あつて
人あつて申されつて

慈鎮和尚の法座に

徳大寺^寺より年乃きとま下あり寝殿の西は角

乃る趣は法座大なる有西のりは紋對面けり云

なり一糸法中云た大持家六百番千合の兩方

右人数りしよしあて加^{ひきき}評定て方太り河と書

より自^{トよのあ}館人数不^た悉日あれとも寐^い連^{えん}臥^{ふし}臥^{ふし}臥^{ふし}

日よしあてりよりひあそり臥^{ふし}臥^{ふし}臥^{ふし}ひりりて

獨^{ひとり}古^{ふる}と稱^{なづ}りりける寐^い連^{えん}ハ^はひとてそ

つこひより稱^{なづ}りり此女房例^{このむすめどまりのりう}ハ^は獨^{ひとり}古^{ふる}はく

み付くまろりとき

大系内府被^{おほ}給^き給^き云後多相院御所^{このあつり}柿^{かき}本^{ほん}あむとそ

なる柿^{かき}本^{ほん}いよれはひ乃^の千^{せん}是とあむとあつて東

本^{ほん}は狂^{くる}歌^かあむ成^{なり}母^{はは}心^{こころ}といふ有^あり、後^{のち}京^{きやう}極^{ごく}意^い法^{はふ}

和^わ尚^{しやう}いふことを何^{なん}考^{かう}逸^{いつ}い^い方^{かた}人^{ひと}て^てあむとあむとあむとあむと

つ^つ夫^そ少^{せう}え^え法^{はふ}眼^{がん}あ^あ也^や水^{みづ}を^を漱^{すす}け^け和^わ平^{へい}に^にあむとあむとあむと

あむとあむとあむとあむとあむとあむとあむとあむと

あむとあむとあむとあむとあむとあむとあむとあむと

柿本栗

とていふに方へ送り給ふ家柄の御ありとて入るのこ
まへとていふに——あつてさういふうぬうぬのまへ
に御ありとていふに——さういふに——あつてさういふに——
にそと上宮勅令のありていふにうぬうぬのまへに
あつてさういふに上人水無願三品の院とていふに
寺に軒乃生る上宮勅令をとりあつていふに
けりうぬうぬの院にけり——いふに——とていふ
と送り給ふ

ふふに花とあるにさういふにうぬうぬのまへに

いふに——とていふにうぬうぬの院にけり——
戸部云遠^{えん}取十首^{しゅ}はるる^るうぬうぬの院にけり——
やみうぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
奇と^{まや}うぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
のいふにうぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
て又^{また}うぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
又^{また}うぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
思ふにうぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——
うぬうぬの院にけり——とていふにうぬうぬの院にけり——

らーあふり

又云新古今は父あふりゆりて後寄風懐
舊よりあるとてあ能あへ入るり兄あふり
まわりの面國なるくは首とてなれあふ
とてうらまうしうりけり

六条内府に於て元よりかんはこれほのよほゆあ
り後八家相國にあふりてとてあふりて
中三句あてとてあふりてとてあふりて
例通老のやとおひせまあふりけり
千五面あふり

合時乃百首よりけり相國よりけり端作陪大上皇

仙洞といふやと平あふりてとてあふりて
あふりてとてあふりてとてあふりて

戸部云大掌會款る仁安六条院殿祚時大吏入道
詠く貞應後堀川院市河よりけり中筋を堅申

る細仁安を恨義例之上現存るべき源儒者よりあ
はれたまふのやとあふりてとてあふりて

申さる仁之由る國よりけり中筋を堅申
可なり其仁之由る之是皆自法大吏よりあ

おろけなり

又云知家父願家信堪能なる事わきとく 隆徽たかひ弱家信

中納言より立視かみもと練之は家流も父よりわいの受中

納之入道きりとて家流もさうなるうとさうへいそ

のれきり是果入るうてす合なくゆと毎方橋

うと新勅撰平教しんしやくなりととる者敗やぶおぬまうとる

口くち才さいよりゆるり中納言入道ちゆうなごん進しん歩ぽと後向ごきやう有

乃心のこころ安来やすきとて家流か信しん百首ひゃくしゅ平へい信しん高たか島しま風ふう神かみ事ことた

おひくひくとてふし不ふ意い思し事こと也なり文保大嘗會ぶんぽうたいじやうかい平へい隆たか教かう

に源之内みなもとの自みづか清きよ下しも戸と鈴すずとてん萩井はぎいとてふめるとあ

は源よりろととて源のりとも源とて字なお源とて又い

ひは杜かりよりかちありとて杜かりよりとて源乃かちい

て我々乃世流いしむは杜かり云々此事このことより本記ほんきよ

神あまのしるあま流杜かりよりとてか信しん者もの事こと一ひとちの

世流よいしむといふかともあふはせう穢け事ことともは

子あふとて山やまあふとていふあんとてふめると

うひるの源なりとてやとて源とて源不ふ審しんありとて

作しやくとてふとてのあふとてふ大嘗會たいじやうかい平へい隆たか教かう

いゆふいぬきちかひとくはなをわたりやじとみむ
とよまきされいあきてよりひてのれなりと云

故家通云民戸に入道いのりを教と車くるまに座ますのきとてさ

御せうはあし車とそかけとをな

卷之十一

秋多きなり候際よりわさめくら内連秋まで約
けるより一月内は日記をて終る

六条内府より致云飛山院河三代集作之賦神
て河連のあまへとして高直より傳て候をせ
らむとて御前賢平つとてしる方と程作して
書寫傳りて源尚純とある兼人々くあまは常純
としてそくとりて通に無きも此の系勿論なり
とりて毫なめ然くよりいにて常純の中
あり
編りける所勅乞ふ急古となす批かん中より

下ける所を弄りて、備穀^{そのまゝ}覧^{ものごと}し、尚純系^{そのまゝ}字^{そのまゝ}細^{そのまゝ}定家^{そのまゝ}の貞應^{そのまゝ}に傳^{そのまゝ}て、橘孫^{そのまゝ}に爲^{そのまゝ}將^{そのまゝ}承^{そのまゝ}流^{そのまゝ}之^{そのまゝ}由^{そのまゝ}和奥^{そのまゝ}書^{そのまゝ}本^{そのまゝ}也^{そのまゝ}爲^{そのまゝ}兼^{そのまゝ}の用^{そのまゝ}は^{そのまゝ}新^{そのまゝ}按^{そのまゝ}一^{そのまゝ}等^{そのまゝ}一^{そのまゝ}由^{そのまゝ}は^{そのまゝ}歟^{そのまゝ}一^{そのまゝ}等^{そのまゝ}一^{そのまゝ}

小倉云文永飛山版土首平合近は嚴重と宴也
 き大教執師大旨あまうことあてこそ所山あ望る
 詠よらうあへき秋乃嵩の山は名よかりてをわ
 きもいれあやと詠一きるまうと毎二詠詠
 吟穀感うと氣山潜方府中たよたらとて向御也

2
の
↓

中納言典侍

1

8

子

2

三

10

1

5

い
ら
な

2.

天

卷之六

卷之四

聖教感

—

後三内老死

平中納言惟輔云云國光院教信云法通云云
て入るふりまもをうらまひいふもいふ
昔あるに除國乃事とわかれ道と也いふ
隨ふ推し道於わあま休信く又云伏見院
伏見院よりをうらまへる由内後勅撰あふ
門院と唐司前國白しに下る合ふ此条後
院あふりゆは所抽紙あふり事也伏見院
製教と法照念院あふりとは風神各別也

時代不
同なり

あふりゆは所をうらまへる事究竟いふに
用意乃通も事ありろさる也或人云時代
不同乎合ふ家被合元良親王なる所えは親
王といふあふりこれおろけりめて
するに利は事あり家隆も小町はは
よき家おろけは法もいふに也但後多相院
常信元良親王被侍あふり也と信あるも
所きよけは法さお平た打はあふり
あふりゆは事合ふと信ふ入法法首あふ

一 此は其の第一の巻なり
一 其の第二の巻なり
一 其の第三の巻なり
一 其の第四の巻なり
一 其の第五の巻なり
一 其の第六の巻なり
一 其の第七の巻なり
一 其の第八の巻なり
一 其の第九の巻なり
一 其の第十の巻なり

一 此は其の第十一の巻なり
一 其の第十二の巻なり
一 其の第十三の巻なり
一 其の第十四の巻なり
一 其の第十五の巻なり
一 其の第十六の巻なり
一 其の第十七の巻なり
一 其の第十八の巻なり
一 其の第十九の巻なり
一 其の第二十の巻なり

新ひつ次ねそろふ事一海一
事む群敵をへさ中今此宗通活
道仍氏も毎月乃百箇としてしめ
所く小勅撰しえくひ入ぬる
中一子

初宗通云初さいしんひひする時ときを常じょうに憂うれひひて
うれひありしもそいひて河かよりいひなる也

安永元年十月十七日

此六卷

文明十八年
五月十七日

常陸院以御内書法意

之条備之俄於燈下事之平我同
八月正本被返下重方在以内所日集
書岡伊勢守貞宗收ありて者也

延徳元年四月二日

法下判

明徳九年より延和元年或仁写ありて西本一
禁裏より中策及之び本等より不て地備有
之書籍多し紛吳より延和元年七十二

抄

師病氣及數日於今忘當
此苦執事之時論隨然別
無佛法別
和年一之謂同一味而已此六帖二之
一帖有他義之同書改之
右式部一之系大納言致書
授合平一之系一之系一之系
之系為重而一之系書之系

享祿三季三月十二日
おり光城書之系
右系何賢

慶安元年下秋吉日



五
坊

